

第6次総合計画 基本構想「めざすまちの姿」検討シート（⑥健康・福祉）

（1）市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

めざす まちの姿	つながりの中で『すこやか』があふれるまち
実現した ことを確認 する方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健やかに暮らせる市民がたくさんいる。 ・ つながりが多様になり生きがいがある暮らしができています。

（2）主な社会経済動向

人口減少と少子高齢化

- ・ 生産年齢人口（15～64歳）と子どもの数の減少
- ・ 高齢者の増加
- ・ 高齢者の単独世帯の増加

医療・介護

- ・ 高齢者（特に85歳以上）が2040年にかけて増加し、ほとんどの都道府県で医療・介護ニーズが増加
- ・ 介護人材の需給ギャップが拡大
- ・ 高齢化により「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められている

価値観・ライフスタイルの変化

- ・ シニア世代の自己実現や社会貢献への意識の高まり

地域社会のつながり

- ・ 自治会等の地縁組織への加入率の低下
- ・ 人と人との関係が希薄化、孤立する人が増加
- ・ 災害時の支援活動や防犯活動、子育て支援、環境美化など、住民同士が支え合う地域社会の姿が求められている

（3）主な宝塚市の現状認識や特性

少子高齢化

- ・ 妊娠・出産する人は減少傾向
- ・ 65歳以上の高齢化率が比較的高い
- ・ 高齢者の単独世帯、高齢夫婦世帯は増加傾向

地域社会のつながり

- ・ 自治会への加入率は減少傾向（H21年度69.5%⇒H30年度58.8%）

地域福祉

- ・ サロンなどの地域における居場所数は増加傾向
- ・ 互いにつながり、認め合い、支え合うことが重要
- ・ 身近な地域で必要な支援が受けられることが必要
- ・ 地域ごとのまちづくり計画の見直しの中で、福祉の視点も取り入れるなど地域における福祉の取組を推進

高齢者福祉

- ・ 要介護・要支援認定を受けている高齢者の比率は増加傾向
- ・ 社会参加による健康・いきがいつくりの推進が必要
- ・ 元気な高齢者が地域の支え手となる意識の醸成や仕組みが必要
- ・ 必要な支援を受けながら住み慣れた地域等で暮らせる環境が必要

障害者福祉

- ・ 障害者手帳、療育手帳の所持者は微増で推移
- ・ 自立した生活や社会参加のため、保健・医療・福祉・住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保されることが必要

健康

- ・ 特定健康診査受診率は横ばい、がん検診受診率は概ね減少傾向
- ・ 三大死因による死亡率は全国・兵庫県平均よりも低い
- ・ ライフステージに応じた体とこころの健康づくりを推進し、健康寿命を延ばすことが必要
- ・ 安心して妊娠・出産できる仕組みの充実が必要

医療

- ・ 人口10万人あたり施設数、病床、医師数は比較的少ない
- ・ 病院や在宅で適切な医療を受けられる環境づくりが必要

社会保障

- ・ 国民健康保険一人あたり保険給付費は増加傾向
- ・ 生活保護世帯は微増で推移
- ・ 社会保障制度の適切な運用により市民の暮らしを守ることが必要
- ・ 後期高齢者医療制度の被保険者数の増加

（4）めざすまちの状態

- （地域福祉） ・
- （高齢者福祉） ・
- （^{がい}障害者福祉） ・
- （健康） ・
- （医療） ・
- （社会保障） ・